

各関係機関長 殿

岡山県病害虫防除所長
(公印省略)

病害虫発生予察情報について

病害虫発生予報第5号を下記のとおり発表したの送付します。

平成29年度病害虫発生予報第5号

平成29年8月4日
岡山県

予報概評

作物名	病害虫名	発生時期	発生量
水稲	葉いもち(中生種、晩生種)	—	やや多
	穂いもち(極早生種、早生種)	—	並
	紋枯病	—	やや多
	白葉枯病	並	並
	穂枯れ(早生種、中生種)	—	並
	ニカメイガ	並	並
	セジロウンカ	—	やや少
	トビイロウンカ	並	並
	イチモンジセセリ	やや遅	やや少
	コブノメイガ	やや遅	やや少
	カメムシ類	—	多
ダイズ	べと病	—	並
	紫斑病	—	やや多
	ハスモンヨトウ	—	やや多
モモ	モモハモグリガ	並	少
	ナシヒメシンクイ	—	並
	ハダニ類	—	並
ブドウ	さび病	並	やや少
	褐斑病	—	並
	べと病	—	やや少
	ブドウトラカミキリ	並	並
	フタテンヒメヨコバイ	並	並

作物名	病虫害名	発生時期	発生量
キュウリ	べと病	—	やや少
	うどんこ病	—	やや少
	褐斑病	—	やや多
トマト	疫病	やや遅	やや少
	葉かび病	—	やや多
ダイコン	軟腐病	—	並
アブラナ科野菜	キスジノミハムシ	—	並
野菜共通	アブラムシ類	—	並
	ミナミキイロアザミウマ	—	並
	ハスモンヨトウ	並	やや多
キク	ハダニ類	—	並

1 普通作物

(水 稲)

(1) 葉いもち (中生種、晩生種)

予報内容

発生量 **やや多**

予報の根拠

ア. 7月24～26日の巡回調査によると、県南部地帯の発生圃場率は72.2%で平年(50.2%)よりやや高かった。

イ. 8月3日の季節予報によると、8月の気温は高く、降水量は多いとされており、発生をやや助長する条件である。

防除上の参考事項

ア. 葉いもちは穂いもちの伝染源となるので、発生圃場では速やかに薬剤防除を実施する。未発生圃場でも耐病性が弱い品種では初発後の病勢進展が速いので、早期発見に努める。

イ. 不安定な大気の状態で、にわか雨などが続くと病勢が進展する可能性がある。

(2) 穂いもち (極早生種、早生種)

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 7月24～26日の巡回調査によると、県北部地帯の葉いもちの発生圃場率は6.7%で平年(18.9%)より低く、中部地帯は37.5%で平年(43.7%)よりやや低かった。

イ. 8月3日の季節予報によると、8月の気温は高く、降水量は多いとされており、発生をやや助長する条件である。

防除上の参考事項

ア. 葉いもちが多発するなど穂いもちの多発が予想される場合は、液剤ま

たは粉剤による出穂直前及び穂首出揃期の2回防除に加えて、傾穂期の散布を行う。

イ. 不安定な大気の状態で、にわか雨などが続くと病勢が進展する可能性がある。

(3) 紋枯病

予報内容

発生量 **やや多**

予報の根拠

ア. イネの茎数は概ね平年並である。

イ. 7月25～26日の巡回調査によると、発生圃場率は16.7%で平年(16.5%)並であった。

ウ. 8月3日の季節予報によると、8月の気温は高く、降水量は多いとされており、発生を助長する条件である。

防除上の参考事項

ア. 昨年多発生した圃場では伝染源が多いと考えられるので、圃場をよく観察し、適切に防除を行う。

(4) 白葉枯病

予報内容

発生時期 **並**

発生量 **並**

予報の根拠

ア. 7月25～26日の巡回調査において、平年同様発生を認めなかった。

イ. 8月3日の季節予報によると、8月の気温は高く、降水量は多いとされており、発生をやや助長する条件である。

(5) 穂枯れ(ごま葉枯病菌による穂枯れ: 早生種、中生種)

予報内容

発生量 **並**

予報の根拠

ア. 7月25～26日の巡回調査によると、県内全域での葉におけるごま葉枯病の発生は1.1%で平年(9.0%)より低かった。

イ. 8月3日の季節予報によると、8月の気温は高く、降水量は多いとされており、発生をやや助長する条件である。

(6) ニカメイガ(第2世代幼虫)

予報内容

発生時期 **並**

発生量 **並**

予報の根拠

ア. 赤磐市のフェロモントラップにおいて、7月5半旬までに誘殺は認められず、平年(0頭)並であった。

イ. 7月24～26日の巡回調査において、平年同様発生を認めなかった。

(7) セジロウンカ

予報内容

発生量 **やや少**

予報の根拠

ア. 赤磐市の予察灯における7月1～5半旬の飛来数は、5頭で平年(72.4頭)より少なかった。

イ. 7月24～26日の巡回調査によると、発生圃場率は13.3%で平年(47.8%)より低く、すくい取り(20回振り)調査での成幼虫数は0.3頭で平年(33.3頭)より少なかった。

ウ. 8月3日の季節予報によると、8月の気温は高く、降水量は多いとされており、特に本虫の増殖を助長する条件ではない。

(8) トビイロウンカ

予報内容

発生時期 並

発生量 並

予報の根拠

ア. 赤磐市の予察灯における7月1～5半旬の飛来数は、0頭で平年(0.1頭)並であった。

イ. 7月24～26日の巡回調査において、平年同様発生を認めなかった。

ウ. 8月3日の季節予報によると、8月の気温は高く、降水量は多いとされており、特に本虫の増殖を助長する条件ではない。

防除上の参考事項

ア. 圃場をよく観察し、本虫を確認したら直ちに防除を徹底する。

イ. 本虫は圃場内に局在し、また稲の株元に集中するので、より多くの稲の株元を丁寧に観察する。

(9) イチモンジセセリ (第2世代幼虫)

予報内容

発生時期 やや遅

発生量 やや少

予報の根拠

ア. 7月24～26日の巡回調査では発生を認めず、発生圃場率は平年(6.8%)より低かった。

イ. 8月3日の季節予報によると、8月の気温は高く、降水量は多いとされており、特に本虫の増殖を助長する条件ではない。

(10) コブノメイガ

予報内容

発生時期 やや遅

発生量 やや少

予報の根拠

ア. 7月24～26日の巡回調査では発生を認めず、発生圃場率は平年(25.9%)より低かった。

イ. 8月3日の季節予報によると、8月の気温は高く、降水量は多いとされており、特に本虫の増殖を助長する条件ではない。

(11) カメムシ類

予報内容

発生量 多

予報の根拠

ア. 赤磐市の予察灯における7月1～5半旬のアカスジカスミカメの誘殺数は

1,163 頭で平年（489.7 頭）より多く、過去 10 年間で最も多い。さらに、真庭市の予察灯における 7 月 1 半旬～5 半旬の誘殺数は、354 頭で過去 5 年間の平均値（40.4 頭、参考値）より多く、過去 5 年間で最も多い。

イ. 8 月 3 日の季節予報によると、8 月の気温は高く、降水量は多いとされており、特に本虫の増殖を助長する条件ではない。

防除上の参考事項

ア. 岡山県病害虫防除所発表の病害虫発生予察注意報第 1 号（7 月 27 日発表）参照。

(ダイズ)

(1) ベと病

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 8 月 3 日の季節予報によると、8 月の気温は高く、降水量は多いとされており、特に発生を助長する条件ではない。

(2) 紫斑病

予報内容

発生量 やや多

予報の根拠

ア. 8 月 3 日の季節予報によると、8 月の気温は高く、降水量は多いとされており、発生をやや助長する条件である。

(3) ハスモンヨトウ

予報内容

発生量 やや多

予報の根拠

ア. 県予察圃場（赤磐市）のフェロモントラップにおける 7 月 1～5 半旬の誘殺数は 319 頭で、平年（188.4 頭）より多かった。

イ. 8 月 3 日の季節予報によると、8 月の気温は高く、降水量は多いとされており、特に本虫の増殖を助長する条件ではない。

2 果 樹

(モ モ)

(1) モモハモグリガ

予報内容

発生時期 並

発生量 少

予報の根拠

ア. 赤磐市のフェロモントラップにおける 7 月 1～5 半旬の誘殺数は 2 頭で、平年（82.6 頭）より少なかった。

イ. 7 月 21 日の巡回調査によると、発生圃場率は 0 % で平年（4.1 %）より低かった。

ウ. 8 月 3 日の季節予報によると、8 月の気温は高く、降水量は多いとされており、特に本虫の増殖を助長する条件ではない。

(2) ナシヒメシクイ

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 赤磐市のフェロモントラップにおける7月1～5半旬の誘殺数は15頭で、平年(52.2頭)より少なかった。

イ. 7月21日の巡回調査によると、発生圃場率は46.2%で平年並(37.1%)であった。

ウ. 8月3日の季節予報によると、8月の気温は高く、降水量は多いとされており、特に本虫の増殖を助長する条件ではない。

(3) ハダニ類

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 7月21日の巡回調査によると、発生圃場率は28.6%で平年(27.8%)並であった。

イ. 8月3日の季節予報によると、8月の気温は高く、降水量は多いとされており、特に本虫の増殖を助長する条件ではない。

(ブドウ)

(1) さび病

予報内容

発生時期 並

発生量 やや少

予報の根拠

ア. 7月21日の巡回調査において、平年同様発生を認めなかった。

イ. 8月3日の季節予報によると、8月の気温は高く、降水量は多いとされており、発生をやや抑制する条件である。

(2) 褐斑病

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 7月21日の県予察圃場での発病葉率は32.9%で平年(41.3%)よりやや低かった。

イ. 7月21日の巡回調査によると、発生圃場率は9.1%で、平年(12.8%)よりやや低かった。

ウ. 8月3日の季節予報によると、8月の気温は高く、降水量は多いとされており、発生をやや助長する条件である。

(3) ベと病

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

ア. 7月21日の県予察圃場での発病葉率は2.1%で平年(31.4%)より低かった。

イ. 7月21日の巡回調査によると、発生圃場率は54.5%で平年(54.8%)

並であった。

ウ． 8月3日の季節予報によると、8月の気温は高く、降水量は多いとされており、発生をやや助長する条件である。

(4) ブドウトラカミキリ

予報内容

発生時期 並

発生量 並

予報の根拠

ア． 7月21日の巡回調査において、平年同様発生を認めなかった。

(5) フタテンヒメヨコバイ (第2世代幼虫)

予報内容

発生時期 並

発生量 並

予報の根拠

ア． 7月21日の巡回調査によると、発生圃場率は0%で平年並 (2.1%) であった。

3 野 菜

(キュウリ)

(1) ベと病

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

ア． 7月27日の県予察圃場での発病葉率は0%で、平年 (56.4%) より低かった。

イ． 7月18、21日の巡回調査によると、発生圃場率は50.0%で平年 (72.0%) より低かった。

ウ． 8月3日の季節予報によると、8月の気温は高く、降水量は多いとされており、発生をやや助長する条件である。

(2) うどんこ病

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

ア． 7月27日の県予察圃場での発病葉率は3.9%で、平年 (26.4%) より低かった。

イ． 7月18、21日の巡回調査によると、発生圃場率は25.0%で平年 (45.7%) より低かった。

ウ． 8月3日の季節予報によると、8月の気温は高く、降水量は多いとされており、特に発生を助長する条件ではない。

(3) 褐斑病

予報内容

発生量 **やや多**

予報の根拠

ア． 7月29日の県予察圃場での発病葉率は72.4%で平年 (10.4%) より高

かった。

イ. 7月18、21日の巡回調査によると、発生圃場率は50.0%で平年(51.6%)並であった。

ウ. 8月3日の季節予報によると、8月の気温は高く、降水量は多いとされており、発生をやや助長する条件である。

(トマト)

(1) 疫病

予報内容

発生時期 やや遅

発生量 やや少

予報の根拠

ア. 7月18、21日の巡回調査によると、発生圃場率は0%で平年(4.2%)より低かった。

イ. 8月3日の季節予報によると、8月の気温は高く、降水量は多いとされており、発生をやや助長する条件である。

(2) 葉かび病

予報内容

発生量 **やや多**

予報の根拠

ア. 7月18、21日の巡回調査によると、発生圃場率は25.0%で平年(14.4%)よりやや高かった。

イ. 8月3日の季節予報によると、8月の気温は高く、降水量は多いとされており、発生をやや助長する条件である。

(ダイコン)

(1) 軟腐病

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 7月18、21日の巡回調査によると、発生圃場率は25.0%で平年(37.3%)よりやや低かった。

イ. 8月3日の季節予報によると、8月の気温は高く、降水量は多いとされており、発生を助長する条件である。

(アブラナ科野菜)

(1) キスジノミハムシ

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 7月18、21日の巡回調査によると、ダイコンでの発生圃場率は25.0%で平年(32.0%)並であった。

イ. 8月3日の季節予報によると、8月の気温は高く、降水量は多いとされており、特に本虫の増殖を助長する条件ではない。

(野菜共通)

(1) アブラムシ類

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 県予察圃場（赤磐市）の黄色水盤への7月1～5半旬の飛来数は40頭で
平年（60.3頭）よりやや少なかった。

イ. 7月18、21日の巡回調査によると、トマトでは発生圃場率が37.5%で
平年（36.3%）並、キュウリでも25.0%で平年（33.2%）並であった。

ウ. 8月3日の季節予報によると、8月の気温は高く、降水量は多いとさ
れており、特に本虫の増殖を助長する条件ではない。

(2) ミナミキイロアザミウマ

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 7月18、21日の巡回調査によると、露地野菜（ナス、キュウリ）での
発生量は平年並であった。

イ. 8月3日の季節予報によると、8月の気温は高く、降水量は多いとさ
れており、特に本虫の増殖を助長する条件ではない。

(3) ハスモンヨトウ

予報内容

発生時期 並

発生量 **やや多**

予報の根拠

ア. 県予察圃場（赤磐市）のフェロモントラップにおける7月1～5半旬
の誘殺数は319頭で、平年（188.4頭）より多かった。

イ. 7月18、21日の巡回調査によると、ナス、キュウリでは平年同様発生
を認めなかった。

ウ. 8月3日の季節予報によると、8月の気温は高く、降水量は多いとさ
れており、特に本虫の増殖を助長する条件ではない。

4 花き類

(キ ク)

(1) ハダニ類

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 7月18、21日の巡回調査によると、発生圃場率は0%で平年（8.9%）
より低かった。

イ. 現地の病害虫防除員等からの情報によると、県南部地域の産地で発生
がやや多となっている。

ウ. 8月3日の季節予報によると、8月の気温は高く、降水量は多いとさ
れており、特に本虫の増殖を助長する条件ではない。

この情報は、岡山県病害虫防除所ホームページでも公開しています。アドレスは、
http://www.pref.okayama.jp/soshiki/kakuka.html?sec_sec1=239 です。

